

第3回 肱川橋周辺まちづくり検討委員会 議事録（概要版）

日 時：平成 23 年 7 月 28 日（木）

13:30～15:20

場 所：大洲河川国道事務所 第2会議室

出席者：委員 11 名ほか

開会

議事

主催者挨拶

- ・肱川橋架替事業としては、平成 21 年度に第 1 回・2 回委員会を開催したのち、これまでに測量など工事に向けての準備を進めてきた。また、平成 23 年度から肱南地区での歩道整備事業、交差点整備事業を進めることとなったため、橋梁架替事業と一体となって進めていきたい。
- ・肱川橋は単なる土木構造物ではなく、大洲市の観光の要であるため、「まちづくり」や「景観」に配慮して、事業を進めていく。

委員紹介

委員長挨拶

委員長

- ・本日の第 3 回委員会において、肱川橋の景観デザインが決定されることを期待する。
- ・肱川橋の架け替えにおいて、地域の皆さまの意見を聴くことによって、地域のアイデンティティのあり、子供たちが愛着を持って渡れる橋のデザインとしていきたい。

1. これまでの委員会のおさらい

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 3～18 の説明】

2. 橋梁デザイン

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 20～34 の説明】

3. 街路デザイン【参考】

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 35～41 の説明】

大洲市都市整備課 武田課長補佐

- ・肱川橋架け替え事業や歩道整備事業を機に、良い環境を作っていきたいと考える有志によって、まちづくりの話し合いを行う会を設置している。
- ・事業が完了する 10 年後程度を見据えた「まちづくりの新しい方向性」を作るため、1～2 年で基本的なまちづくりのプランを造ることを目的としている。
- ・想定される地権者からは、工程表を示してもらいたいという意見があった。
- ・また、本事業と合わせて、人が集まれる場所の提供や、大洲にゆかりのある人物の案内板の設置について要望を受けている。

4. 質疑応答

桁下の見え方

委員長

- ・「桁下の見え方」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

A委員

- ・(パネルなどを設置しない) 1案に賛成する。私案であるが、目立たないようにするだけでなく、色彩の工夫により桁下のアクセントとすることが考えられると思う。

B委員

- ・添架管は、メンテナンスしやすい構造であるべきであるため、1案に賛成する。

C委員

- ・1案に賛成する。
- ・橋脚の支承部には隙間があるため、鳥の巣などにより、美観を損なわないような対策が望まれる。
- ・添架管についてはメンテナンスが重要である。桁下については、観光客への紹介を目的に河川の遊歩道にサインなどを設置することはあっても良いが、桁下の添架管はアクセントとしての着色するのではなく、存在感を抑えた1案が良いと考える。

事務局

- ・鳥の巣等の対策については、ネットの設置が考えられるが、景観に配慮した本橋の計画としては望ましくないため、ネット以外での防鳥対策等は検討できると考えられる。

B委員

- ・添架管は、左右4箇所の間以外にも設置される予定はあるか確認したい。
- ・また、具体的にはどのような色彩となるのか。

事務局

- ・添架管の設置によって荷重が増えることになり、橋梁構造にも影響するため、現在のところ追加の設置予定はない。
- ・添架管の色彩は、亜鉛メッキなどコンクリート桁に近いグレー系を推奨案としている。

D委員

- ・1案に賛成する。
- ・添架管の色彩については、大洲の風景にマッチして、桁下から見た際に楽しめるような色であっても良いと考える。また、橋梁の構造が分かるような、見た目が望ましい。

E委員

- ・肱川橋は「鵜飼い船」でも紹介される街の中心の橋であり、桁下から視点があることも特徴である。隠すだけでなく、デザインを工夫してほしい。
- ・橋脚の量水標が目立つため、新橋については目立ち過ぎないデザインとしてほしい。

委員長

- ・量水標は本会の話題ではないが、重要なお意見であり、私も同感である。
- ・委員の方々のご意見をまとめると1案が望ましいと思われる。色彩については、日照状況等によっても見え方が違うため、専門家の意見に従うことが良いと考える。
- ・委員会としては1案を採用し、色彩の判断は事務局に委ねることとする。

水位観測所デザイン

委員長

- ・「水位観測所」に関連して、案によって考え方が異なるので、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

C委員

- ・隣接する民地とのウォールについて、1案の場合は四阿の屋根材と統一するべきと考える。

事務局

- ・洪水時の作業性とは、係員が観測などに際して、雨除けがあることで各種作業が遂行しやすいことを意味している。3案は、荒天時の作業性が他案に劣ることを示している。

E委員

- ・1案のコロニアル瓦は、5～7年程度で退色し、10年以上では劣化による欠けも想定されるため、10年後は葺き替えが必要となることも考えられる。
- ・2案の日本瓦は、50年程度の耐久性があると言われ、コロニアル瓦に比べてメンテナンスの頻度が低いことなどから、2案が良いと考える。

A委員

- ・2案が良いと考える。

事務局

- ・大洲の街のゲート（玄関）であるため、市の景観計画に則った計画とすることが重要と考えている。

委員長

- ・1案と2案については、初期コストは異なるものの、メンテナンスコストを含めると、大差は無いと言ってよい。
- ・委員会としては、2案を採用する。

親柱デザイン

委員長

- ・「親柱」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

F委員

- ・水位観測所が瓦屋根とするのであれば、大洲城などの歴史の継承という観点では、それらに調和する2案が良いと考える。

A委員

- ・4案と5案は、橋梁規模に対して小さい印象を受けた。
- ・歴史の継承をイメージした2案は、先進的な橋のイメージに合わないと思われるため、1案か3案が良いと考える。

B委員

- ・造り込み過ぎない自然な形状が良いと考える。

C委員

- ・橋梁自体がスレンダーな見た目であるため、水位観測所の瓦屋根も同様であるが、歴史に拘りすぎることは好ましくなく、2案や3案は重い印象を受けた。
- ・橋自体の存在との馴染みという面では、1案が良いと考えている。
橋梁のサイドビューを取り込んだイメージは良いが、そのデザインは単円ではなく緩やかな曲線が良いと思われる。

委員長

- ・例えば、子供たちの意見を参考にするなど、橋の架け替えに携わったという実感を、地域の方々に持ってもらえる仕組みで決定することも考えられる。

E委員

- ・提示案には、魅力がないと感じる。人物やまちの紹介を記したものを設置した案が良いと考えた。
- ・親柱の検討に当って、大洲市内の橋の親柱を確認した結果、周辺には2案の様な形状が多いと感じた。一方で1案の様な形状もあったものの、人工的な印象を受けた。
- ・子供たちの意見を聴くことも良いと思うが、まちづくり検討委員会であるので、大洲市の委員会等の意見を交えて最終決定することとし、今回委員会での結論は保留とされてはどうか。

委員長

- ・今回（委員会）での結論は保留することとしたい。
- ・大洲市の委員会において議論することといった選択肢を含めて、最終的には事務局で決定して下さい。

街路デザイン（歩道舗装）

委員長

- ・「歩道舗装」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

E委員

- ・肱南地区は、歩道が設置されていないため、現在は通学路に指定されていないが、この工事で歩道が設置されれば、肱北地区からの学生は国道沿いを走るようになると思われる。
- ・市役所横の県道は、車と自転車の接触事故が多いことが問題となっている。今回の歩道整備においては、通学の現状を踏まえた上で安全なものとしてほしい。
- ・具体的には、電柱、縁石の設置位置、市道交差点での右折車との接触事故を危惧する。

事務局

- ・歩道幅員が広がるため、車と歩行者の両者からの視認性は大幅に向上することになる。

委員長

- ・事務局は今後の設計において、今回の意見を踏まえた設計としてほしい。

C委員

- ・歩道舗装は、復旧等によって「継ぎ接ぎ」にならないように配慮することが重要と考える。
- ・点字ブロックは、輝度比に配慮しなければならないが、黄色が目立ちすぎるのは良くない。景観に配慮した地区であるため、黄色以外のブロックを是非採用してほしい。但し、天候のほか、実際の対象者の意見を伺うことは必ず実施しなければならない。
- ・A案は、通常のアスファルト舗装とどのように異なるのか確認したい。また、防護柵の塗装色は、歩道舗装によって変更することができるか確認したい。

事務局

- ・(A案の) 石灰石を利用したアスファルト舗装は、ショットブラスト加工を施すことで、白い石灰石が表面に現れるため、通常のアスファルト舗装より明るい印象がある舗装である。
- ・防護柵の塗装色は、グレーベージュとして、舗装の案によって塗装色を変更することは考えていない。

A委員

- ・整備当初は、道路自体に存在感があるB案が良いと考える。
- ・しかし、(肱南地区は) どの様なまち並みが形成されるか現時点では分かりかねるため、まち並みが完成してきてから、変えていくことも考えられる。
- ・また、車両への注意喚起といった観点からも、歩道と車道は異なる色彩としている方が、好ましい。

G委員

- ・現在、国道には上下水道の幹線は埋設されていないため、維持管理による頻繁な掘り返しによる「継ぎ接ぎ」の心配は少ないと思われる。

委員長

- ・歩道舗装は、まちづくり計画において決定して頂くことが望ましく、大洲市の委員会において議論して頂きたい。

その他

委員長

- ・その他、ご意見・ご質問等があれば受け付けたい。

E委員

- ・学校関係者からは、肱川橋北詰めの交差点の形状が危険であるという意見があった。本事業においては、分かりやすく安全な形状に改めて頂きたい。

G委員

- ・右岸下流側に計画されている工事用進入路について、工事後の復旧計画を確認したい。
河川敷はイベントの会場となることが多いが、現在は河川敷への進入路が分かりにくい交差点形状となっている。計画においては配慮して頂きたい。

委員長

- ・皆様のご意見等を伺いましたので、質疑応答をこれで終わりたい。

閉会